

読者からの便り

ヘール・ボップ彗星の観察

山田 寛子¹⁾・山田 正春²⁾

1997年には、史上最大級の巨大彗星が地球に近づき、春先にはくっきり明るくなり、淡い尾が伸びて見える、と報ぜられて大きな関心を集めていましたので、私も是非観察したいと思っていました。

この彗星は、1995年7月24日夜、アメリカのアマチュア天文家ヘール(A・Hale)さんとボップ(T・Bopp)さんが、殆ど同時に発見したということで、ヘール・ボップ彗星と名付けられました。しかし正式には、認識符号(1995 O1)で、これは1995年7月後半の最初に発見されたことを示しています。この時ボップさんは、他人の望遠鏡を借りて観測していたというエピソードもありました。

ヘール・ボップ彗星は、3月に入ると夕方には我が家の北西角の方向に、日毎に尾も長くなってゆく様子が、はっきりと観察出来ました。丁度学校も春休みになりましたので、光度が(0等~-1等)と最も明るくなると予想されていました頃の3月30日、家族揃って山梨県の山中湖に観察に出掛けました。この日は日曜日でしたので、やはりこの彗星を見ようと、たくさんの方の車の列で一杯でした。当日は幸運にも晴天に恵まれ、満点の星空の下、午後9時頃には写真のように空高く尾を斜め上に伸ばして、北西の方向に長時間に亘ってよく見えましたし、またチリとガスの尾が別れている様子なども観察出来ました。写真の左側の明るさは甲府市街のものです。9時40分頃には、大分地平線に近づいていました。彗星の尾は、太陽に近づくとしたがって次第に明るくなり、また尾が伸びてきますが、これはガスの尾とチリの尾の2つの尾が、別れて出来るからなのだそうです。ヘール・ボップ彗星の尾をよく見ると、真直ぐ伸びたガスの青い尾と、緩やかにカーブしたチリの黄色みを帯びた尾の2本が見えて、この関係もよく観察出来ました。その後4月にも見る事が出来ましたが、5月には次第に低く、見えにくくなり、下旬からは見えなくなってしまいました。



写真1 H.9.3.30(日)21時 山中湖畔, 寛子(左)展子(右)

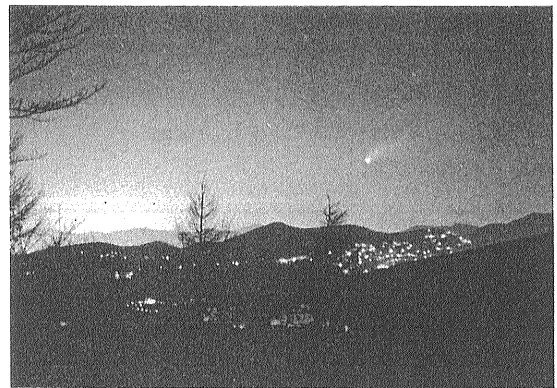


写真2 H.9.3.30(日)21時40分 山中湖畔.

彗星は、我が国では古くから「^{ほうきぼし}箒星」と呼ばれ、吉凶を占うものとして古典にも出てきますが、ヨーロッパではイギリス王ハロルド2世にまつわるお話のように、歴史に残るものもあるようです。

この彗星がこの次に地球に接近するのは、2,400年も先になるとのこと、私にとっては気の遠くなるようなお話です。

今回の、妹(展子)と一緒にこの彗星を背にした写真は、この観察文が載る地質ニュースとともに、私達姉妹の一生の思い出になることと思っています。

なお、観察に当たっては「藤井 旭の天文年鑑 1997年版誠文堂新光社」を参考にしました。

1) 杉並区立西田小学校

2) 元所員